

2-6 火山ハザードマップ

火山ハザードにおいて対象とするのは溶岩流、火碎流、火山弾、降下火碎物、ラハールの5種類の現象である。

地図1：溶岩流の1種のみを表示、火山ハザードを理解してもらうための基礎資料として地質図を表示(図版A0)

地図2：火碎流とラハールを重ねた図、火山弾との3種表示(図版A0)

地図3：降下火山灰の1種のみ表現(図版A0)

火山ハザードに関するより良い理解のため、火山ハザード地域で地質図を表示した。地質図は調査期間中に作成した。地質図を図2-6に示す。地図2を図2-7に示す。地図の上部は、火碎流危険影響圏を示し、下部は火山弾の影響域を示す。1991年日本の普賢岳で発生した、火碎流の被害写真を説明の補うため載せた。火山弾に関しては、噴出物の弾道軌道のイメージを模式的に示したイメージを入れ込んだ。

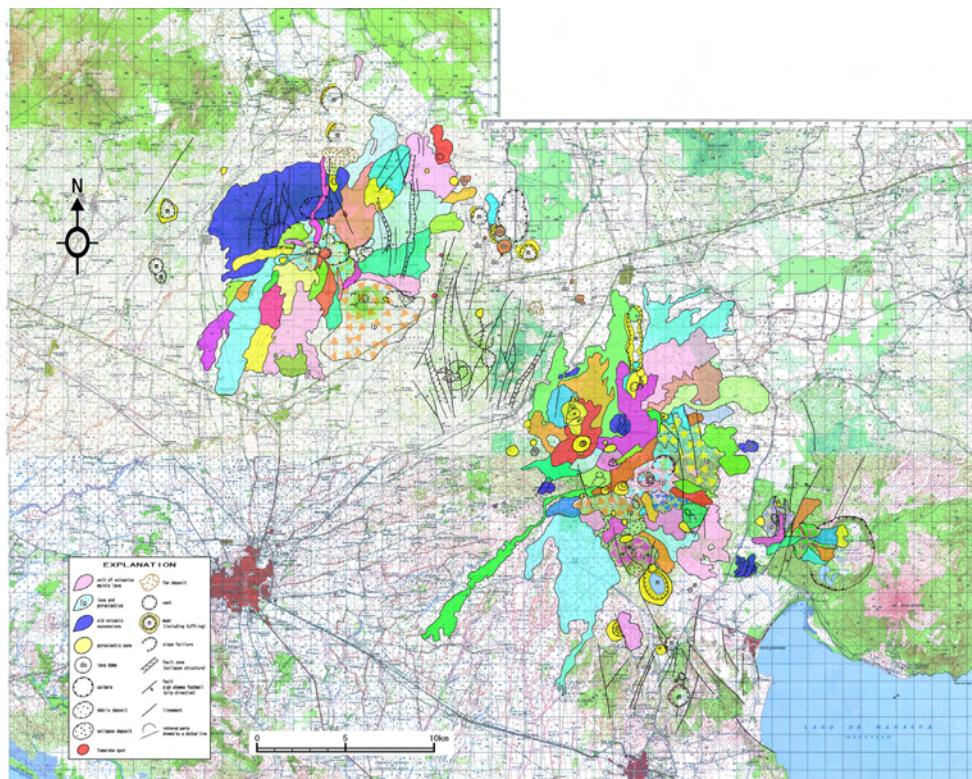


図 2-6 対象地域の地質図

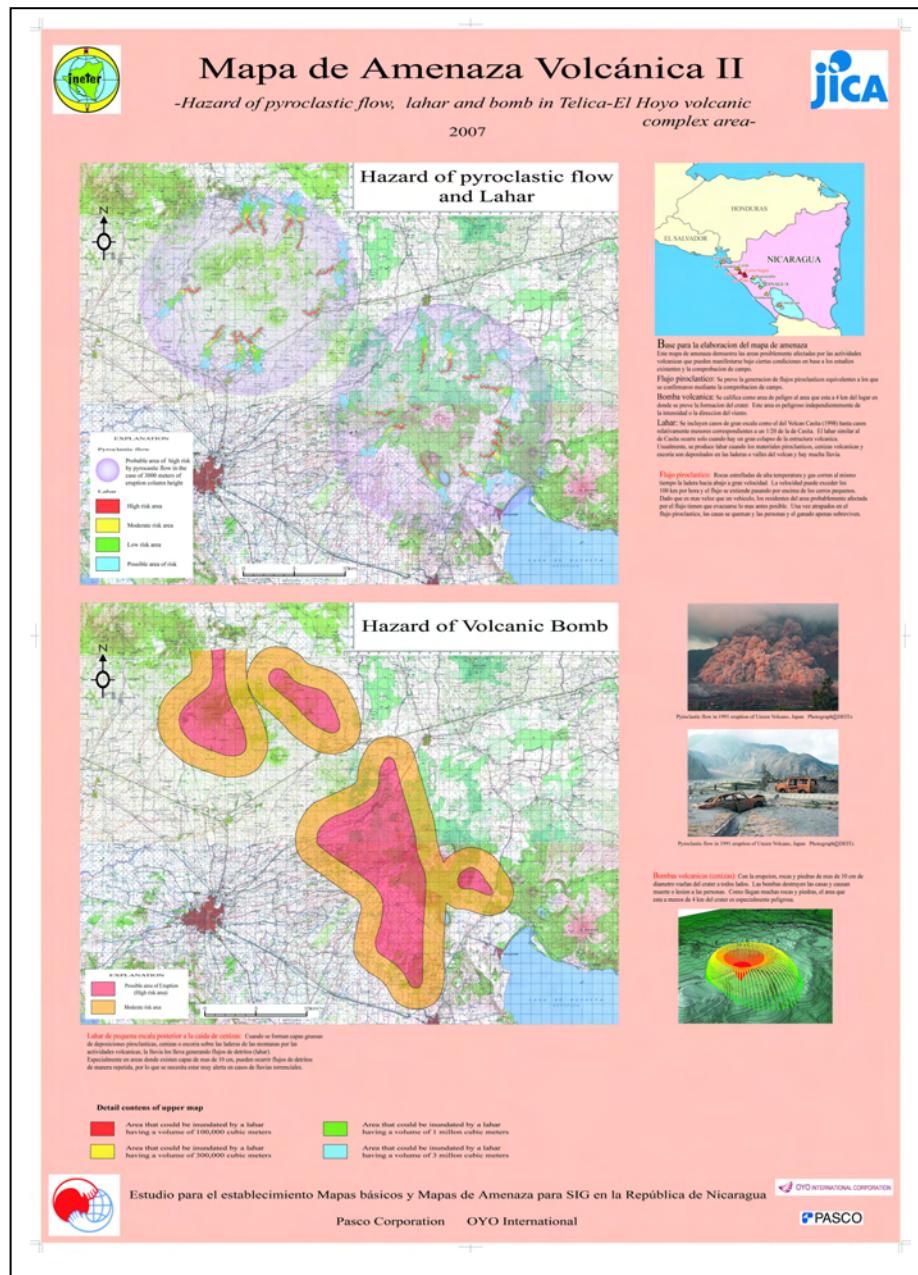


図 2-7 地図 2 : 火碎流のハザード、ラハールと火山弾

2-7 洪水ハザードマップ

2種類の災害予測図を作成した。

タイプ G

A1 サイズのカラー地図を（図 2-8）。このタイプは調査の主な結果を表すため、また市での活動を支援するためにデザインした。

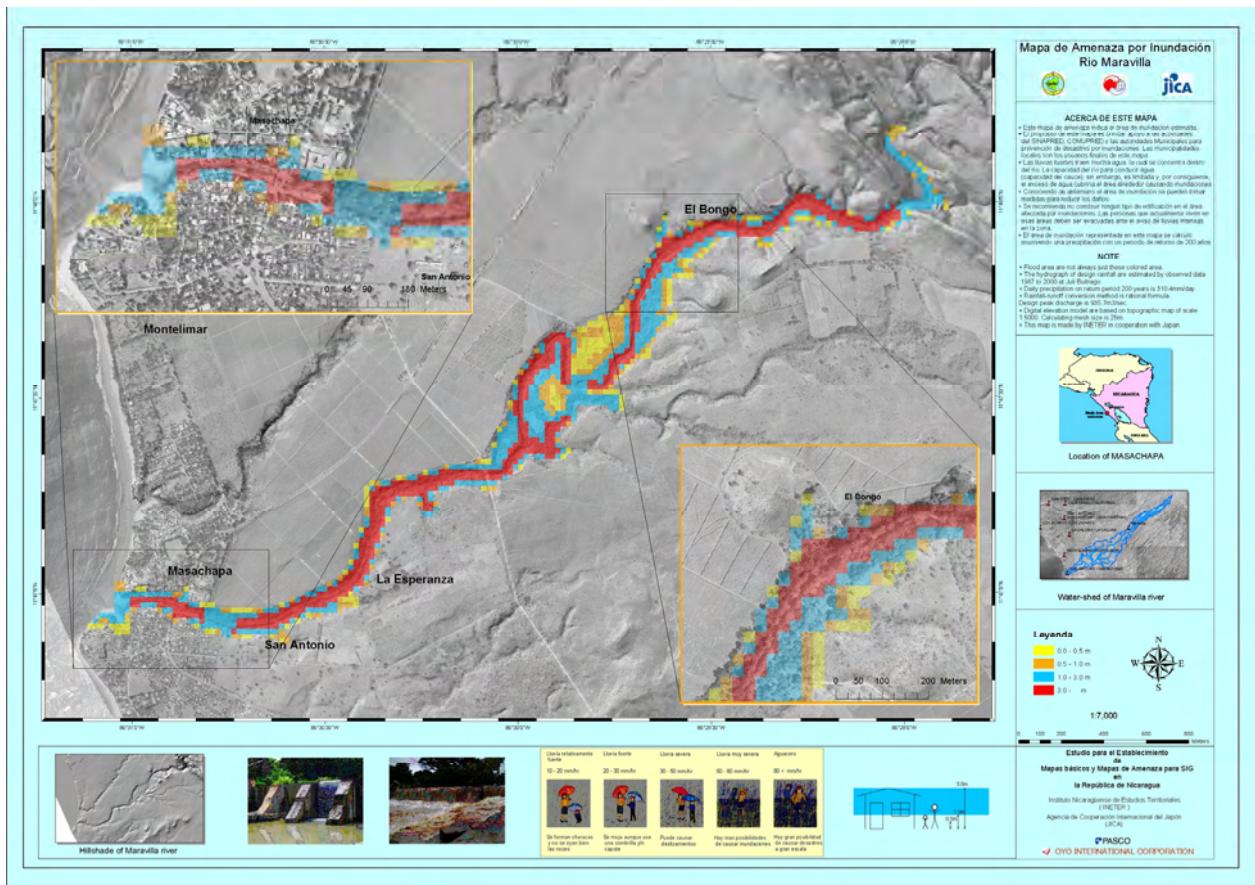


図 2-8 市での利用を対象にした大型図（タイプ G）

この災害予測図は洪水エリアを推測し、情報を提供する。洪水エリアは 200 年の再現期間ケースに対する計算結果を表している。

タイプ P

タイプ P は、レターサイズの白黒の図である（図 2-9）。このタイプはコピーで作成が可能になるように意図されている。また住民への配布も配慮している。

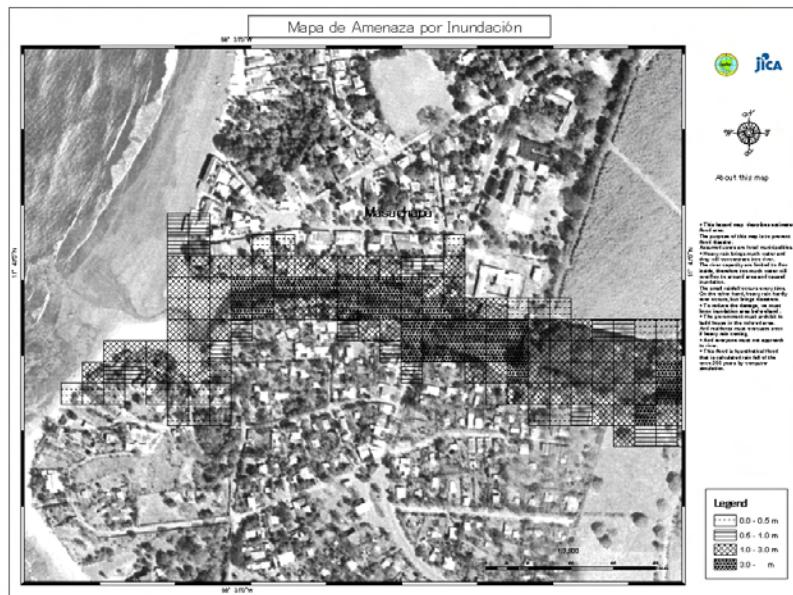


図 2-9 住民への配布を考慮した小さい大きさ（タイプP）

2-8 津波ハザードマップ

既存地形図を編集して、津波ハザードマップのシミュレーションのため地形モデルを開発した。さらにマサチャッパで測量を実施した。サンファンデルスールの前のエリアで最悪のケースのシミュレーションを行うため、1992年のニカラグアのシナリオ津波をシミュレーションのために利用した。パラメータ詳細は、既存研究成果に基づいている。最大氾濫の観察データとの最適応が得られるように調整した。コリント、ペルトサンディーノ、マサチャッパとサンファンデルスールの太平洋海岸に沿った主要な町での災害予測図を作成した。シミュレーションのアウトプットは海岸、シミュレートされたエリアの水位変化、そして海岸地域での最大氾濫分布のアニメーションに沿ってあるポイントでの水位の時間的変化歴を含んでいる。

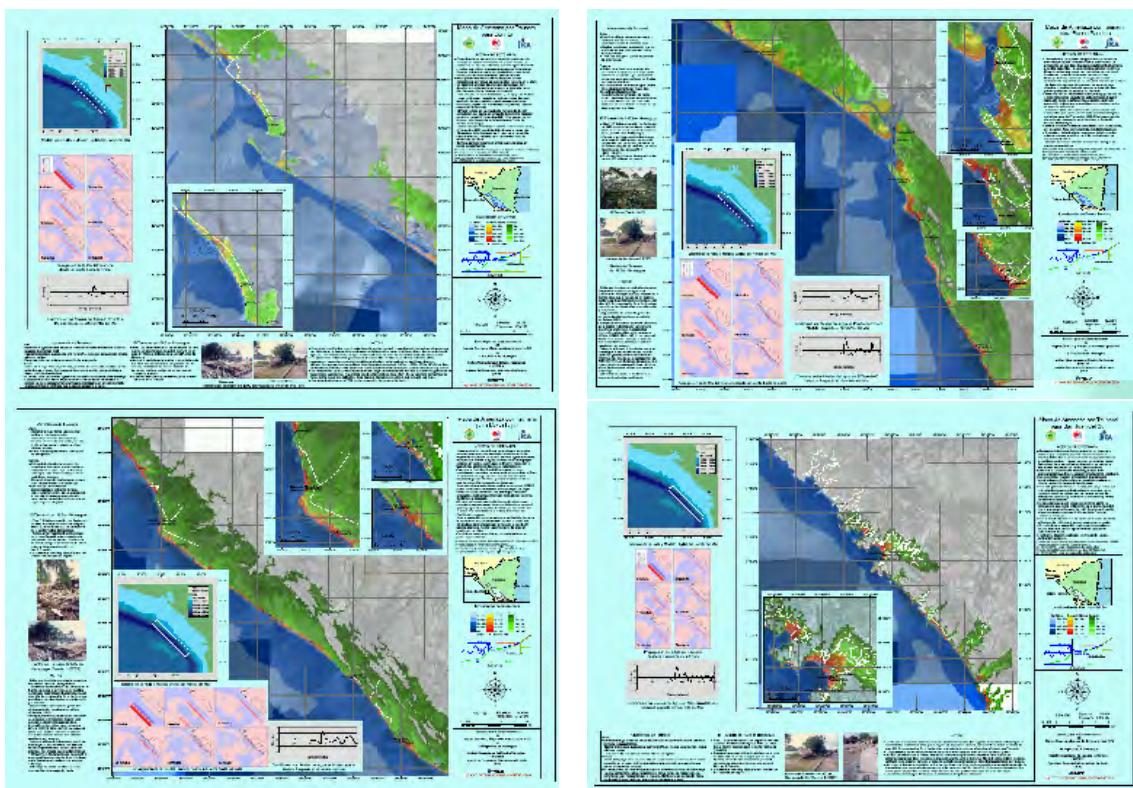


図 2-10 津波ハザードマップの例